

Atsuko Kudo

Mail Magazine 201

2014.01.20 ●台湾レポート
(客家人、日語族、台湾人伝道)

1月7日～15日の台湾ツアーのためにお祈りくださり、ありがとうございました。大変ハードなスケジュールでしたが、主は絶えず力を注いでくださり、祝福のうちにツアーを終えることができました。皆さんの祈りのお支えをひしひしと感じました。心からの感謝を申し上げます！

事後報告になってしまいましたが、台湾では、以下の奉仕をさせていただきました。

8日(水) 東勢、市立老人学校にて証しと賛美

9日(木) 東勢、老人ホーム老人学校にて証しと賛美、夕方、3組の客家人日語族ご夫妻を訪問

10日(金) 東勢、ルター派教会「施恩堂」にて伝道コンサート

11日(土) 同上教会の若者集会にて「賛美セミナー」

12日(日) 午前、台中、東海靈糧堂(ドンハイ リンリヤンタン)の2回の礼拝にて賛美コンサート

午後、東勢「施恩堂」の夕礼拝にて、伝道についてメッセージ

14日(火) 台北、中山基督長老教会 賛美コンサート

今回は、ピアニストの野田常喜さんが日本から同行、また9日からは、通訳のために、荘さんこと荘田欽次さんが、海外出張の合間を縫って台湾まで駆けつけてくださいました。

●東勢

東勢は、台中市の東に位置する区で、人口は約52000人。そのほとんどが客家人です。

客家人とは、漢民族の中でも中原発祥の中華文化を守ってきた正統な漢民族で、戦乱から逃れるため南へと移動、定住を繰り返してきた民族です。移住先では原住民から見て“よそ者”であるため、客家と呼ばれるようになりました。移民の例にもれず、土地の所有が困難であったために、流通や商業に従事することが多く、師弟の教育にも熱心な民族です。商業の他に、教育の高さから教職に就く人が多く、



荘さん、野田さんと、東勢にて



小さなリンゴのような形をした東勢産の大きな「なつめ」

「中国のユダヤ人」と呼ばれています。特に果樹栽培の盛んな東勢では、多くの農民が、土地を汚さないようにと、赤字を覚悟で有機栽培をしています。

（老人学校）

東勢では、8日と9日にふたつの老人学校で証しと賛美をさせていただきました。終戦までの50年間、日本統治下にあった台湾では、年配の方々の多くは日本語を話されるからです。といっても、客家語が中心の東勢では、今では、日本語を忘れてしまっている方がほとんどです。



そのため、通訳者が私の証しを北京語に訳し、通訳者のお母様が北京語から客家語に訳すというダブル通訳になりました。しかし、通訳者がノンクリスチャンであったため、聖書の聖句が分かりませんでした。しかし、マタイ6章33節のみことばでは、私が「神の国とその義」のメロディーを歌いまいしたら、すぐに、東勢ルター派教会の孫牧師（客家人を愛し、伝道するために東勢にやってきた韓国人牧師）が中国語で歌い、また、Iコリント13章の愛の聖書箇所を伝えと、すぐに、中国語でそのみことばの歌を歌ってくださるという、孫牧師の絶妙な賛美の合いの手と私の証しの時となりました。孫牧師は、素晴らしいテナーの声の持ち主です。最後に、「きみは愛されるため生まれた」を、中国語と韓国語でデュエットしました。そうしましたら、老人の皆さんが大変喜んでくださり、私の知らない、戦前の日本の歌謡曲を次々と歌って下さいました。日本語は忘れても、歌だけはしっかり覚えておられました。



（客家人日本語族訪問伝道）

その後、3軒の客家人日本語族の家を訪問しました。

最初に訪問したのは**Rさんご夫妻**宅でした。一時間ほど親しくお話しをさせていただき、最後に主が真実の道へと導いてくださいますよう、お祈りをさせていただきました。

それから、**Sさんご夫妻**を訪問しました。教会へお誘いしましたら、ご主人は熱心な信徒とのこと。そこで、使徒行伝4：12のみことばをもって、主がSさんご夫妻に、キリスト以外に救い主はおられないことを明らかにしてくださるようにと祈り求めましたら、何とSさんが、最後に「アーメン！」と唱和されました。明確な救



いには至っていないと思いますが、Sさんの霊が、イエス様を救い主として認めた時であったと思います。どうぞ、Sさんご夫妻の霊的解放と救いのためにお祈りください。

3軒目は、3年前、2年前と2回続けて訪問した**Cさん宅**でした。最初の訪問は、ハンブルク日本語教会の井野葉由美先生とでした。2回目の訪問では、Cさんは、「私のいのちはもう長くない」と言われました。そこで、「では、イエス様を信じて、天国へ行く準備をなさいませんか？」と言いましたら、「僕はキリスト教は嫌いじゃない、好きだよ、でもご先祖様を捨てることだけはできない」と言ったのです。客家人は、先祖崇拜の民族で、台湾人の6～7%がクリスチャンであるのに対し、客家人のキリスト者は1%にも至っていません。そこで、「Cさんのために祈りますから、もしイエス様が心のドアをノックされたら、はい、と言って開けてくださいね」と言ってお別れしました。Cさんは、昨年5月に亡くなりました。今となっては、Cさんが主を受け入れたかどうかは主が知るのみです。今回訪問したのは、ひとり残されたお嬢さんの**Sさん**でした。生涯独身を通してお父さんの面倒を見て来られたSさんは、毎日、泣き暮らしています。私が訪問した時も、泣きっぱなしでした。そこで、孫牧師、野田さんと共に、Sさんの肩に手を置いて祈りました。最後には、笑顔を見せてくれました。どうぞSさんの救いのためにお祈りください。

（施恩堂コンサート）

今回の台湾でのコンサートは、すべて台湾人クリスチャン声楽家のシンイーとのジョイントでした。10日の東勢、ルター派教会「施恩堂」コンサートでは、最初に、聖歌隊が客家語、台湾語、北京語で賛美され、その霊と喜びに溢れる賛美に大変感動しました。賛美の合間の証しでは、皆さん真剣に、時に涙を流しながら聞いてくださいました。荘田さんの名通訳のおかげです。

（賛美セミナー）

11日は、約1時間半、若い方々に賛美についてお分かちしました。11月に開催した賛美セミナーの要約のような形で、十分な説明は出来ませんでしたが、大切なことを提示させていただく時であったと思います。歌





詞よりリズムが先行しがちなビート音楽の中で生きてきた若者たちが、まず歌詞を第一とし、真に神に喜ばれる賛美を求めて行ってくれることを祈っています。また、今回、初めて東勢に同行してくれた野田さんのピアノ演奏は、多くの方々に、大きな感銘を与えました。野田さんが奏でる聖歌や「神の国と神の義」などの演奏を聞いたある若者のピアニストが、世俗音楽の楽譜を捨てて、これからは神を賛美する曲だけを弾く決心をしました。



●台中（靈糧堂コンサート）

12日は、台中市の東海靈糧堂（ドンハイ リンリヤンタン）の午前の2回の礼拝で、それぞれ1時間ずつコンサートをさせていただきました。最後に牧師先生が招きをしたとき、多くの方々が挙手されたようです。どうか主がその方々の決心を確かなものとしてくださいますように！



●台北（中山教会コンサート）

14日、中山基督長老教会でコンサートをさせていただきました。この教会は、日本人が建てた旧・聖公会大正町教会で、重要文化財に指定された、ゴシック式の大変美しい教会です。ここでは、神様が素晴らしい奇跡を見せてくださいました。

2週間前になって急に決まったコンサーだったため、中山教会の多くの会員は学び会があるので参加できないとのことでした。私は、「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」、というみことばが与えられ、疲れていた体にも力が与えられ、たとえ数人の来場者であっても、主の霊によって歌い、賛美させていただくことを祈りました。当日は、雨という悪条件が重なりました。しかし、何と約150名の方々が来られ、教会堂はほぼ一杯になったのです！



コンサート後、ひとりのご婦人が主に触れられ、莊さんのところに「イエス様を信じたい」と言ってこられたそうです。どうぞそのご婦人のためにお祈りください。また、台北日語教会のうすき先生が、日本語教室の生徒さんたち20名を連れて来てくださいました。「今日は、授業の代わりに、工藤さんのコンサートを聞きに行きましょう」と。多くの方が涙を流されてい

たそうです。うすき先生が伝道のために続けて来られた日本語教室の生徒さんたちを、主が救いへと導いてくださいますように！

客家人、日語族、台湾人への伝道コンサート、個人伝道、賛美セミナー、教会の若者への奨励と、様々な奉仕をさせていただきました。しかし、私には十分な能力も強い体力もありません。ですから、絶えず神の助け、聖霊の力を祈り求めました。そして、主は、再び「求めなさい。そうすれば与えられます」を体験する時としてくださいました。ハレルヤ！



東勢で、7日間、心からのおもてなしをしてくださった張さん宅での最後の朝食。互いに祝福し合う歌を歌っているところ。このご一家には、3年続けてほんとうにお世話になりました。主と人にまごころ込めて仕える姿に、多くのことを学ばされました。

主に歌え。

御名をほめたたえよ。

日から日へと、

御救いの良い知らせを告げよ。

主の栄光を国々の中で語り告げよ。

その奇しいわざを、すべての国々の民の中で。

(詩篇 96:2,3)

もし主がお許しくださるなら、来年も、客家人、日語族、台湾人、そして今度は、在住邦人のためにも、台湾で奉仕させていただければと願っています。



客家人特有の布地模様

●お祈りください

1月23日～28日、CD「よき力に守られて」のレコーディングをいたします。どうぞ、主が霊肉、声を守ってください、心からの賛美録音ができますようお祈りください。ドイツには1月31日に帰ります。

主の守りと祝福が皆様と共にありますように！

Atsuko Kudo



【お知らせ】

1. 賛美セミナーの DVD,CD 好評発売中です！

11 月に開催した「賛美セミナー」の録音、DVD を希望の方は AKWM ホームページのオンラインショッピング、<http://atsukokudomm.com/html/music.html> メール akmm@atsukokudomm.com 、またはファックス 06-6226-1336 までご注文ください。

◎ DVD 2 枚組（11 月 4 日大阪セミナー録画、1.賛美とは、2.詩篇 51, 50、3.ビート音楽の影響、4.音楽と聖書）4000 円（テキスト付、国内送料無料、国外発送は送料有料）

◎ CD 4 枚組（11 月 9 日東京セミナー録音、1.賛美とは、2.詩篇 51, 50、3.ビート音楽の影響、4.音楽と聖書）4000 円（テキスト付、国内送料無料、国外発送は送料有料）



2. 説教シリーズ CD「聖歌詩から学ぶ信仰」(10 枚組)

AKWM の顧問であられる、「ミッション宣教の声」主宰の黒田禎一郎師が、説教シリーズ CD「聖歌詩から学ぶ信仰」(10 枚組)が出されました。

内容は以下の通りです。

1. ファニー・クロスビー：「イエスのみうでに」(聖歌 495)
「罪とがゆるされ」(聖歌 232)
「おそれなくちかよれよ」(聖歌 591)
2. チャールズ・ウェスレー：「よびとよ歌え」(聖歌 171)
3. ウィリアム・クーパー：「とうとき泉あり」(聖歌 428)
4. ジョセフ・スクライヴィン：「いつくしみふかき」(讃美歌 312)
5. ロバート・ロビンソン：「いのちのいずみに」(聖歌 273)
6. フィリップ・ブリス：「きよいふみは教える」(聖歌 459)
7. アンナ・バーレット・ウォーナー：
「主われをあいす」(讃美歌 461)
8. アイザック・ウォッツ：「Joy to the world」(聖歌 122)
9. フランシス・ハヴァガル：「われいのちを」(聖歌 157)
10. フィリップ・ブルックス：「O little town of Bethlehem」(しずかにねむれる)(聖歌 124)

定価 5000 円(税込) 送料別

大変興味深い内容ですので、ご希望の方は、「ミッション・宣教の声」の HP のお問い合わせから→
<http://www.vomj.jp/html/contact.html> 、またはファックス 06-6226-1336 までご注文ください。